

③ 経済発展を増幅させる POWER

国は、東京オリンピック・パラリンピックの開催を予定している2020年に向け、外国人観光客の受け入れ環境整備を進めるなど、観光先進国を目指すこととしています。



▲観光客でにぎわう登別温泉極楽通り

当市は、登別温泉やカルルス温泉をはじめ、基幹産業である観光産業を中心に、国内外から多くの観光客にお越しいただいておりますが、受け入れ体制の充実や質の高いサービスの提供による満足度の向上など、これまで以上に登別観光の付加価値を高め、全市的な広がりをもって経

済循環を加速させることが求められています。

本年3月には、北海道民の悲願であった北海道新幹線が開業し、東北地方をはじめとする本州などから多くの観光客の来訪が期待されており、開業効果の最大化を図るため、登別観光の玄関口となるJR登別駅が安全で安心して利用できるようバリアフリー化に向けた取組を進めるとともに、訪れた観光客が長く滞留できるように魅力的な周辺整備のあり方について、市民の皆さんと共に検討を始めます。

さらに、登別観光の付加価値を高める取組として、地産地消を意識した食の魅力の向上と食文化の育成に努めるとともに、登別ブランドを磨きあげることによって、高付加価値の商品が開発され、他の事業との相

乗効果が発揮されるようサポートしていきます。

登別ブランドをはじめとしたまちの魅力を広く発信するとともに、ふると納税制度をこれまで以上に推進し、多くの方から応援いただけるまちづくりを進めていきます。

また、病気を抱える方が安心して当市を訪れ、何日にも渡って滞在することができるよう、関係医療機関や旅行代理店と連携し、国内外の透析患者を受け入れるメディカルツーリズムの実現に向け、取り組んでいきます。

まちの経済発展のためには、近隣住民に対応できる元気な商店街の存在が重要でありますので、起業機会の創出や空き店舗の再利用を促すことにより商店街の活性化に努めるほか、各地域にお住まいの方や企業・団体などの協力を得て、時代に即した魅力ある独特な取組が各地域で実践されるよう支援していきます。

④ 安全で安心な社会を 実現させる POWER

市民の皆さんが安全で安心な生活を営むためには、安定した行財政運営のもと、将来を見据えた計画に基づく取組や施設の計画的な整備などが必要不可欠でありますので、常に

市職員と共に自らに問いかけ、不断の見直しを行いながら行政経営に取り組んでいきます。

少子高齢・人口減少社会に適応したまちの形成には、人の流れを把握し、将来的に生活空間がどのように変化していくのかをふまえながら、まち全体をデザインすることが重要となりますので、暮らしやすさなどの視点から、市内の中心エリアをどのように形成していくかなどについて、市民の皆さんと共に議論を始めます。

災害時の対策などについては、東日本大震災や熊本地震、大規模停電などを教訓に、当市が被災した場合において支援を的確に受けることができるよう災害時受援計画の策定に着手するとともに、噴火の周期性がある有珠山の災害発生時における近隣市町への支援の方策などについて、適切な行動が可能となるよう後方支援計画の策定に取り組むほか、大規模災害に備え、民間施設を活用した長期間避難施設の確保などに取り組みます。

また、市民の安全を第一に考え、さらに当市を訪れる観光客の安全を意識した新たな消防体制を構築し、とりわけ観光客の往来する地域をはじめとして、支署の再編に取り組み、平成32年度を目途に登別支署と登別



▲登別温泉の玄関口としての役割を担っている「JR登別駅」